

学生の創造力で拓く 生成AI問合せサービスの未来

～生成AIによるユーザサポートと学生参画の可能性～

December 1, 2025

日本女子大学 理学部 数物情報科学科
学科長 メディアセンター所長
長谷川 治久

日本女子大学 理学部 数物情報科学科
平井 野乃花



日本女子大学

なぜ、生成AIによる学生サポートなのか？

1. 学生本位の教育体制

多様な教育体制が整備されるにつれ、学生への情報提供が必要。

2. 大学DXの推進

デジタル化によるサービス向上と事務の効率化への要求。

3. AIの日常生活への浸透

普段の生活における情報収集ツールとして、学生に浸透。

4. AI技術への興味

実践的にAI技術を学びたい学生の増加。



生成AIサービス学生開発ワーキングについて

- 2024年12月、理学部 数物情報科学科を中心に学生ワーキングを開始。
- 参加者は、合計24名（2年生：11名、3年生：12名、4年生：1名）。



教職員からみた 目的

【目的①】

学生向けに**生成AI問合せサービス**を提供し、
学園サービスレベルを向上を図る

【目的②】

先端技術を活用したサービス企画・開発・リリースを体験し、
今後の学業や研究や就職等に向けた興味関心を養う

【目的③】

学生の視点を活かした、
大学のデジタル改革(DX)を支援する体制を検証する

学生開発ワーキングの取り組み内容

① 対面ワーキング

AIチャットボットについて学んだ後、ワークショップ形式でサービス企画について議論。

② サービス構築

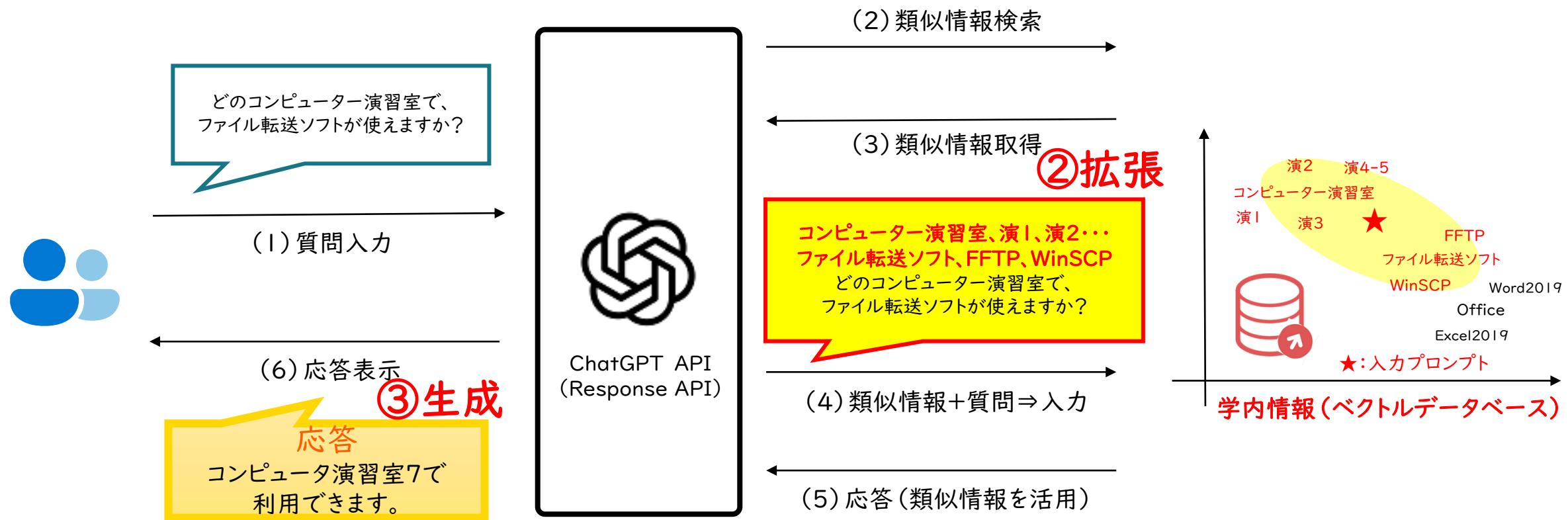
メディアセンターの指導のもと、実際に生成AI問い合わせサービスを構築。

実施日	実施内容
2024年12月19日	キックオフ
2025年2月19日	対面ワーキング
2025年3月14日	生成AI問合せ サービス構築
2025年7月～	トライアル(意見集約)

対面ワーキング
オープニング（対面ワーキングについて）
1. シナリオ型チャットボットを体験しよう！
2. 生成AI型チャットボットを体験しよう！
3. 検索拡張生成（RAG）を活用した 生成AI問合せサービスを体験しよう！
4. 企画書作成作成
5. グループ内議論、グループ案策定
6. 各グループ企画プレゼン
7. クロージング（振り返り・今後の予定）

検索拡張生成 (RAG) とは？

- LLMの学習時に不足する知識を外部データで補う仕組み。
- ベクトルデータベースを検索し、LLMに渡すことによって精度向上させる。
- 学内情報を格納し、大学に特化した学生への情報サポートをめざす。



システム構成への理解

- MicrosoftのCopilot Studio + Power Automate、OpenAI社のAPIで構築。
- ローコード開発で学生がプログラミングスキルに関係なく参加可能。

	ユーザーインターフェース	問合せエージェント	自動化ツール	生成AI 言語モデル	ベクトルデータベース
提供企業					
ツール	Teams 	Copilot Studio  ※Copilot:副操縦士	Power Automate 	GPT-3.5-mini (API) 大規模言語モデル 	Response API ベクトルストア 
機能	質問入力	質問を受取 応答を表示	質問を生成AIに渡す 応答をCopilotに渡す	応答を生成	学内情報を保存・検索
ハンズオン	1. シナリオ型チャットボットを体験しよう!		2. 生成AI型チャットボットを体験しよう!		3. 検索拡張生成 (RAG) を活用した生成AI問合せサービスを体験しよう!

チュートリアル：RAGによるチャットボット構築体験

検索拡張生成 (RAG) により、学内情報に基づいた応答が可能になることを体験

検索拡張生成 (RAG) なし

どのコンピューター演習室で、ファイル転送ソフトが使えますか？

JWU-GPT powered by GPT-4o 14:48



どのコンピューター演習室でファイル転送ソフトが使用できるかについては、具体的な設定やアクセス権限が各教育機関や施設によって異なります。一般的には、以下のステップを取ることでその情報を入手することができます：

1. キャンパスIT部門に問い合わせる：直接IT部門に連絡を取り、どの演習室でファイル転送ソフトがインストールされているか、あるいは利用可能かを確認してください。
2. 公式ウェブサイトや学生ポータルの確認：多くの教育機関では、学生ポータルや公式ウェブサイトで演習室の設備や利用可能なソフトウェアのリストを提供しています。
3. 担当教授や講師に確認：担当の教授や講師がその情報を持っている場合もあるので、授業や講義の中で質問してみてください。
4. 演習室の掲示物を確認：演習室内やその周辺には、利用可能なソフトウェアや注意事項についての掲示があることが多いです。
5. 同級生や先輩に聞く：同じ授業を受けている同級生や、過去に同じ授業を受けた先輩に聞くと、経験に基づいた情報を得られることがあります。

これらの方を活用して、どの演習室でファイル転送ソフトが使用できるかを確認してみてください。

検索拡張生成 (RAG) あり

どのコンピューター演習室で、ファイル転送ソフトが使えますか？

JWU-GPT powered by GPT-4o 14:46



ファイル転送ソフトの使用に関して、以下のコンピュータ演習室で利用可能です：

- 演習室1
- 演習室2
- 演習室3
- 演習室4-5
- 演習室6
- 演習室7
- 演習室9
- 演習室10

これらの室では、FFFTPなどのファイル転送ソフトが利用できます【4:0+source】。

サービス企画（グループワーク）

生成AIサービスについて真剣に企画



とても、和気あいあいとしています。



こちらのグループも楽しそうです。



企画をプレゼン!!



皆さんしっかりした説明です。



最後に、一日を総括しました。



企画シート



決まったにゃん!

ロゴイメージ（手書き・写真等をアップロード）
サービス構成

サービス名
AIメジロ先生
トリガーフレーズ（生成AIを呼び出すためのフレーズ）
教えてメジロ先生
語尾
...にゃん
サービス概要

・学生が24時間・365日・どこでも大学に問い合わせができる、疑問を解消できる。 ・大学の膨大なHP情報やその他資料から自身で検索するのではなく、質問を投げかけることで迅速に質問の回答をもらえる ・学生が使い慣れたTeamsより気軽に質問が可能 ・以前のチャットボットよりも幅広い質問に対応できる ・チャットの内容が保存されるため見返せる
今後の改善案（どのような情報の回答があるとよいか？等） ・単位計算ができるようにする ・おすすめの授業を教えてくれるようにする ・生協関連の情報も欲しい(学食等)

サービス構築の様子

まずは、自己紹介から



スタッフから講義



真剣に聞く学生メンバ-



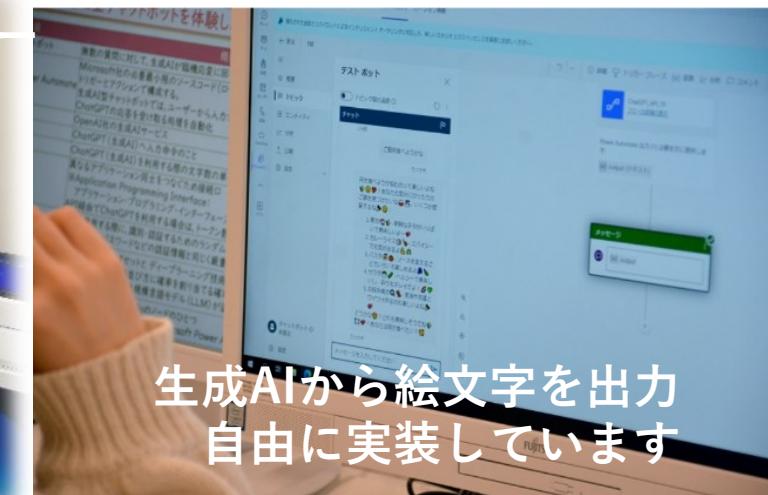
躊いたらスタッフがフォロー



ハンズオンも楽しんでます。



生成AIから絵文字を出力
自由に実装しています



楽しかったにゃん



日本女子大学¹⁰

生成AI問い合わせサービス



システム開発できちゃったにゃん

RAGを活用したことにより
日本女子大学に特化した回答が可能に

- ・学費納入に関すること
 - ・学生生活全般について（奨学金、保険、落とし物、実習期間、学生証、証明書発行など）
 - ・メディアセンターへの問い合わせ全般
 - ・就職相談の予約・相談について
 - ・OG名簿利用について
 - ・図書館利用案内
 - ・PROGテストに関すること
- などなど

ハルシネーションの例



ウソついちゃったにゃん。
ごめんにゃさい。

正しい会話の例

私の4時間目の授業は？



たった今



授業の具体的な内容についてはわからないにゃん。授業の時間割や科目名を確認する必要があるにゃん。JASMINE-Naviを利用して、自分の履修登録状況を確認することができるにゃん。自分の4時間目の授業はその中に表示されているはずにゃん！頑張って確認してみてにゃん！

会話を続けるにゃん？（残り5回）

たった今

ハルシネーションの例

27分前



質問内容を教えてにゃん！

27分前



私の4時間目の授業は？

27分前



あなたの4時間目の授業は「教育心理学研究法」だにゃん。この授業は瀬尾美紀子先生によって行われているにゃん。授業の詳細については、メディアセンターのHPなどで確認すると良いにゃん。

会話を続けるにゃん？（残り4回）

26分前

どのような情報提供がほしい？

- 履修に関する相談
 - 単位計算をできるようにする
 - 自分の条件（教職、進路など）に応じた時間割例
 - 日常的な情報
 - 学生生協の営業時間
 - キッチンカーの出展予定や人気メニュー、混雑具合
 - 大学の休講日・補講日
 - 空きコマの過ごし方
- など



みんなにたくさん相談
してほしいにゃん！

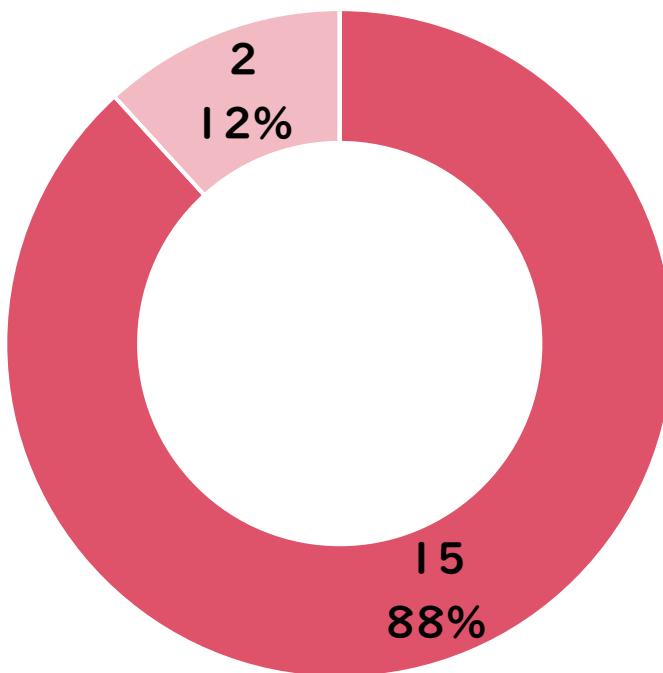


日本女子大学

学生開発ワーキングの学生アンケート 1/2

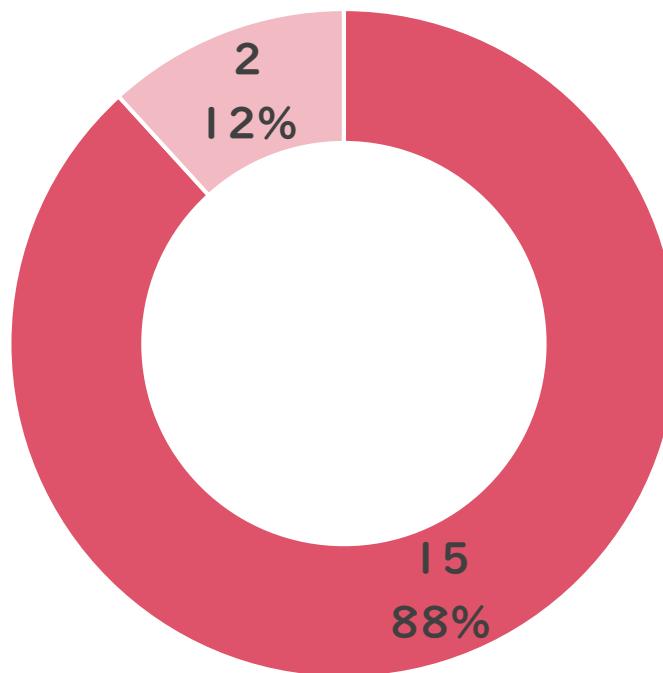
ワーキング

- とても良かった
- 普通
- とても悪かった
- 良かった
- 悪かった



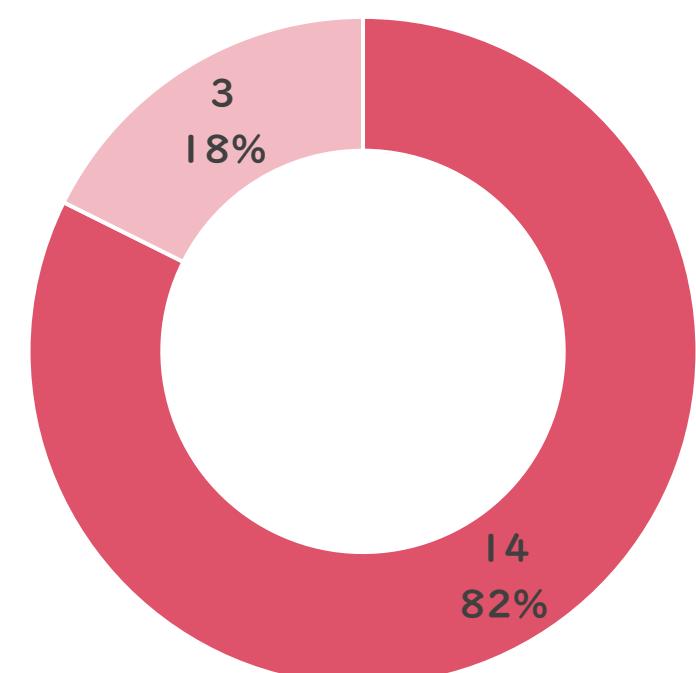
ハンズオン評価

- とても良かった
- 普通
- とても悪かった
- 良かった
- 悪かった



グループワーク評価

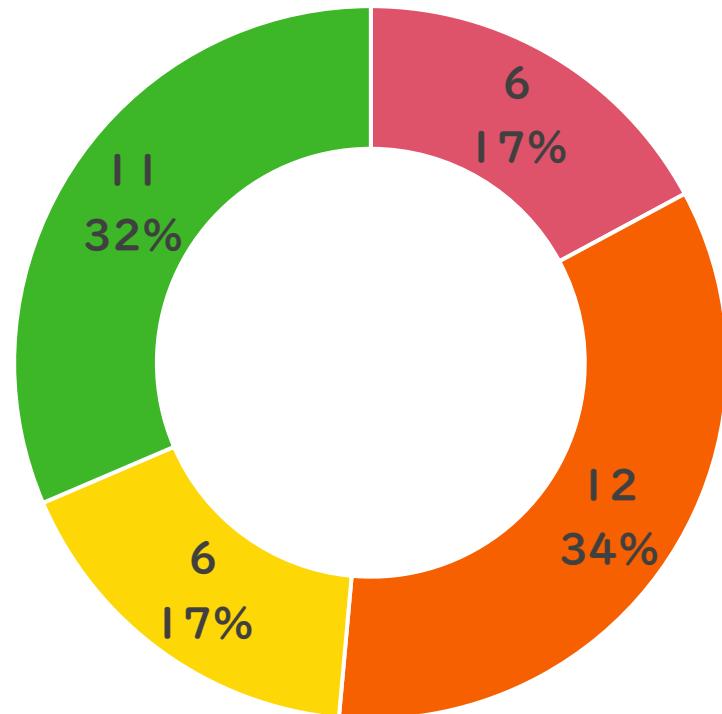
- とても良かった
- 普通
- とても悪かった
- 良かった
- 悪かった



学生開発ワーキングの学生アンケート 2/2

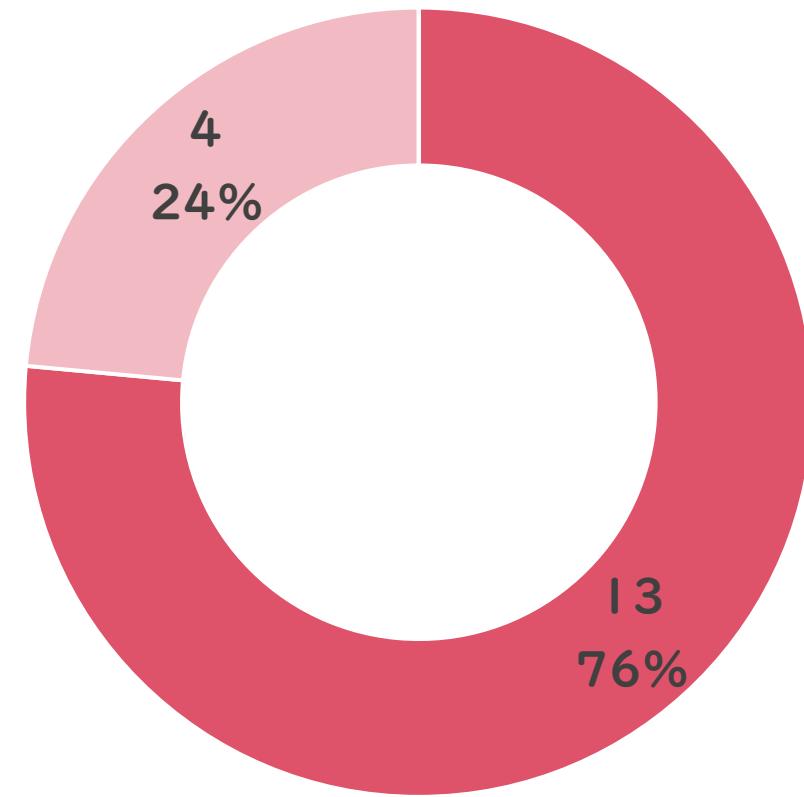
楽しかった内容

- シナリオ型チャットボットの体験
- 生成AI型チャットボットの体験
- RAGを活用した生成AI問い合わせサービスの体験
- グループワーク



今後も参加したいですか？

- 是非参加したい ■ 参加したい
- どちらともいえない ■ 参加したくない
- 参加しない



運用上の工夫と課題

1. 情報の更新

- ・ サーバに投入した情報を日ごとにRAG化する処理は導入済み
- ・ 学生が知りたいと思う情報のリサーチと収集
- ・ 学内情報の扱いに関する難しさ

2. ユーザ管理

- ・ 学内の情報基盤上（Office365）によるユーザ管理が可能
- ・ 運営メンバー、利用可能な範囲などの制御の可能性が広がる

3. ローコード開発、システム上の制約

- ・ 学生が開発に参加しやすくなり、直接的な意見の反映が可能
- ・ システムの高度化が困難（所属に応じたプロンプトやRAGの制御）

まとめ 生成AI×学生参画で大学DXを加速

成果

- Teams上で24時間対応のAI問合せサービスを構築
- RAGにより学内特化情報を提供
- 学生によるローコード開発体制の整備と継続性の確認

価値

- 学生の創造力×RAGの利用により「使えるDX」を実現
- AI技術への理解と実践力の向上などの教育的効果